

# 理事会報告

## 九月理事会

(九月十二日)

- 【庶務報告】
  - ①新型コロナウイルス対策支援金5万円給付の大阪組合加盟店申込み数は154件。振込は8月26日と報告。
  - ②コロナウイルス蔓延のため新年五礼会開催の可否について報告し討議した。決定は執行部に一任と決まった。
  - ③日書連の「キャッシュレス決済利用状況アンケート」アンケートを出席理事に依頼、回収をした。
- 【加入・退会・変更】
  - ▽退会二件
    - 第12支部 北河内 山本書店廃業 枚方市楠葉野田1-35-19 12月30日
    - 第12支部 北河内 TSUTA YA 寝屋川駅前店閉店 寝屋川市寝屋川駅前店閉店

川市八坂町15 7月31日  
 ▽変更三件  
 第11支部 三島 長谷川広文館 移転  
 (旧) 茨木市中総持寺町10-14 ロイヤルコート1F101号  
 (新) 茨木市中総持寺町4-9  
 第11支部 三島 長谷川書店 (本店) 移転  
 (旧) 高槻市芥川町1-7  
 (新) 高槻市津之江町1-60  
 (津之江店と命名)  
 第11支部 三島 長谷川書店本店変更  
 (旧) 高槻市津之江町1-60  
 (新) 高槻市南松原町4-12 (松原店を本店登録)

【重要議題・審議・報告】  
 総会にて承認された定款の理事定数変更にあたり支部再編成について諮り、富士原定款委員

# 米と日本人

堺市 一心堂書店 鎌苅一身

随分大げさなタイトルにしたが、十年ほど前、堺市の肝いりで、町と農村のコラボとして、二年間休耕地で無農薬の米作りを行った。私たちの作った米は驚くほどおいしかったものだ。その年の末には我々の地元で、餅つき大会を行い人々にふるまい喜ばれた。米づくりの際、村の世話人さんより一粒のモミ(又は一束の苗?)から五千粒

長を小委員長として成案をすることを承認した。  
 【読書推進委員会】  
 帯コンの募集は9月3日消印有効で締切った。応募数はコロナのため昨年の約半分の6296点。応募校数は182校(昨年12、6255点300校)。一次選考会日程は9月18日を予行演習とし、9月23日、25日、29日を実施日、10月2日を準備日とした。最終選考会は10月7日と報告した。パネル貼りは11月12日(読書推進実行委員会定例会)に参画するので参加を呼びかけた。

帯コンに今年から朝日学生新聞が協力会社として参加し、「朝日でも新聞賞」を創設すると報告した。  
 帯コン陳列コンクールは実行委員会にて審査をし、左記の通り決定した。  
 1位 トーフックス毛馬店、2位 三栄書房、3位 堀廣旭堂、4位 アバンティブックセンター 藤井寺店、5位 虎谷誠々堂、佳作 喜久屋書店子ども館阿倍野店、アバンティブックセンター 宮脇柏原店、平和

【出版販売倫理委員会】  
 環問協の今年の会議・施設訪問・懇親会はコロナ蔓延防止のため全て中止と報告した。  
 【事業・増完委員会】  
 世界地図カレンダーは税込み価格1部65円で決定し、新井屋カレンダーは組合会議室に見本を展示と報告した

【共同受注・図書館問題特別委員会】  
 公共図書館運営の羽曳野市と守口市の指定管理者導入問題について報告し、今後の対応を研究することとなった。  
 十月、十一月、十二月理事会はコロナ禍のため休会となった。

からは二六三粒、他の分からは二九四五粒を数えることができた。しかし、いづれもモミのままでは併合一合の八割ほどであった。米は炊くと2倍くらいになるが、ひと頃の元気な成人は毎食一合といわれ、日本人の一年間の消費量は約一石になる計算だ。(加賀百万石と言うが、膨大な人口を養えるということだ。)

(因みに、食物にもなるヒマワリの二〇センチ程の大輪には約五〇〇程の種があるようだ。)

一粒のモミからの収穫はとうとうな高倍率であり、弥生期に稲作が入るまでの

狩猟・採集・漁労時代から、日本人の食生活を根底から支えてきたと考える。自分が、もし今遙かな古代人のように原野や無人島に放たれた場合、どう生きていけるだろうかと思いをめぐらせてもみた。

栽培面積を拡大すること、余剰米が出て、また土地の所有をめくり、管理・支配する階層が生まれ、共同体から国家の発生につながっていったのだろう。

収穫のまつり(祭り)、支配のためのまつり(政) 死者をまつる(祀) (政) こともあらたに変化し、発展していったと考え

られる。

# マスク「美人」

堺市 一心堂書店 鎌苅一身

かと思議に思ってしまった。多分マスクを取るともっと素敵なのを確認できるだろう。しかし、あとマスクが不要になると跡が残るかも知れない。高級化粧品売れ行きが悪いとのことだ。当店近くにマツダ美容のお店が出来たのも時代の現れか。

もともと日本人は細目・切れ長・吊り上げりの目が特長で、欧米人は両手でその仕草をしてふざけていたものだ。

人の顔は何で決まるのか。口のかたちはそれ程の差はないだろうと思うが、テレビなどで目を中心にして人物を見つけて見た。それでは、目を除いて唯一立体的な鼻の形は人の顔をどうかたちづけるものなのか。日本人の鼻は低く、母は「オタヤン(お多福)こけても鼻打たぬ」と言っている。

環境もあろうが、米の力とも言えるかもしれない。

全くの脱線であるが、米と麦の主食の違いが京都大山中伸弥教授の言う、新型コロナウイルス感染症の差が、アジア、ジャパンファクターの理由かなとも、かつてに空想してみた。

今、米食が落ち込み米価の値下がり、食糧自給率、耕作放棄地、限界集落、農家の高齢化・疲弊、食糧廃棄など、大きく見れば世界的な食糧不足などの問題が噴出している。

## 参考文献

- 佐藤洋一郎 稲と米の民族誌(NHK出版)、米の日本史(中公新書)

## 編集後記

『堺の諸店人』  
 明けましておめでとうございます。  
 昨年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で私たちの生活が劇的に変わり、とにかく我慢の一年だったと思います。  
 それでも「コロナ禍で壊滅的な打撃を受けた外食業界や旅行業界と違い、苦境といわれる書店業界においては、町の中小書店を含め意外に好調だったように思います。私の店も昨年は鬼滅効果もあり、どっぴか持ち堪える事ができました。  
 今回の組合だよりでは、イベントの中止などで記事が極端に少なく苦慮していたところ、一心堂書店の鎌苅氏より面白い切り口の記事を2本執筆頂き大変助かりました。本当に有難うございます。  
 今年はオリンピックが予定通り開催される事を願い、町の書店が笑える一年になる事を祈っています。  
 本年もどうぞ宜しくお願い致します。